

第十五番 源空寺の御詠歌（上蓮調）

曾 我 晃 也 作曲

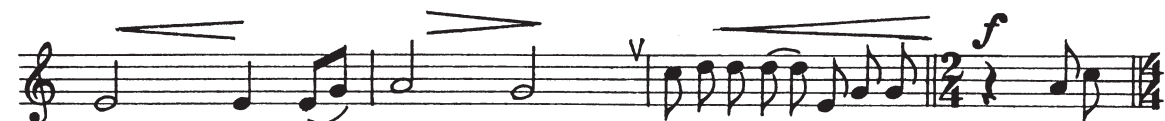
♩ = 54



〔詠頭〕 ○ × × ○ × × ○ × × ○ × ×
ひ — と — — — 〔斉唱〕 こ — え — も — — ぁ — — なむ



○ × × ○ × × ○ × × ○ × ×
あ み だ — ぶ と い う — ひ と — の — — はち



○ × × ○ × ○ × ○ × ○ × ⊗
す — の う — え — に はちすの — う え に のぼ



⊗ ⊗ ⊗ ○ × ○ × ○ × ×
ら — — ぬ — — は な し

第十五番 山城の国 伏見 源空寺

ひとこゑも 南無阿弥陀仏と 言ふ人の はちすの上に ^{のぼ}上らぬはなし
(空也上人御作)

このお寺は昔、木幡の里（現在の宇治市内）にあり、三井寺の忍空上人が法然上人の徳風を慕い専修念仏されておられました。建久6年（1195）法然上人63歳の時、東大寺落慶法要の帰途、忍空上人の請いによりこの地に立ち寄られ、多くの人々を教化された所です。村人は別れを惜しんで、上人の御影を安置することを願い、上人は自ら写されたお経の紙を使い、自らの像を作り忍空上人に授与されました。これが「張貫^{はりぬき}の御影^{みえい}」で、この法然上人像を本尊として、慶長17年（1612）現在の地に移され、宝海山・法然院・源空寺と呼び定められました。

このお歌は、『拾遺和歌集』に「市門^{いちのもん}に書き付けて侍ける」と題して空也上人御作として記載されています。（ただし、初句は「ひとたびも」）

大意 阿弥陀さまの本願を深く信じ、心からお念仏を申したならば、たとえそれが一声であつても、必ず阿弥陀さまの御手によりお浄土の蓮の^{うてな}台に上らせていただけるのです。

ポイント注意

- 「弱起」の曲です。声の立ち上がりソフトに。
- 「はちすのうえに」は歯切れよく。